



デュアル周波数体組成計  
DC-13C  
【シリアル出力説明書】

Version 1.1  
2018/12/06

株式会社タニタ

# 1. 目次

1.	目次 .....	2
2.	概要 .....	3
3.	出力データフォーマット .....	3
4.	出力データ例 .....	4
5.	改訂履歴 .....	4

## 2. 概要

この説明書は、デュアル周波数体組成計「DC-13C」の測定結果を、パーソナルコンピュータ（以下：パソコン）等の外部機器に出力する信号に関して説明するものです。測定終了直後に、体組成計のシリアル通信ポートから、測定結果が出力されます。

通信仕様や接続方法については、【PCモード説明書】を参照ください。

## 3. 出力データフォーマット

送信データは、受信側（パソコンなど）の状態にかかわらず測定直後に出力されます。このため、測定以前に受信側が、常に受信可能な状態になっている必要があります。

電源ONやOFF時に、出力端子の電圧が変動する可能性があります。

信号として認識した場合は、アプリケーション側で無視するようにしてください。

※各データは、カンマ（,）で区切られています。

※ターミネータ（データの最後）は、CR（ASCIIコード ODH）、LF（ASCIIコード OAH）です。

※ID番号が有効でない場合は、“0000000000000000”が出力されます。

※入力された年齢が18才以上の場合はスタンダードかアスリート、17才以下の場合は小児のデータを出力します。

※R(xkHz)はレジスタンス、X(xkHz)はリアクタンスという電気抵抗の測定データです。カッコ内のxは測定周波数です。従来のZ(インピーダンス)は、 $\sqrt{R^2+X^2}$ で計算されます。

項目	ヘッダ	フォーマット	内容	出力順						
				体組成計(GS有り)			体組成計(GS無し)			体重計
				成人	7歳以下	小児	成人	7歳以下	小児	
制御データ	{0	16に固定	2バイト固定長	○	○	○	○	○	○	○
制御データ	0	1に固定	1バイト固定長	○	○	○	○	○	○	○
制御データ	1	1に固定	1バイト固定長	○	○	○	○	○	○	○
制御データ	2	1に固定	1バイト固定長	○	○	○	○	○	○	○
型番	MO	“XXXXXX”	8バイト固定長 (“DC-13C”)	○	○	○	○	○	○	○
IDナンバー	ID	“XXXXXXXXXXXXXXXX”	18バイト固定長 (未入力の場合は“ ”)	○	○	○	○	○	○	○
日付	DT	“yyyy/mm/dd”	12バイト固定長 (yyyy/年 mm/月 dd/日)	○	○	○	○	○	○	○
時間	TI	“hh:mm”	7バイト固定長 (hh:時 mm:分)	○	○	○	○	○	○	○
体型	Bt	0または2	1バイト固定長 (0:スタンダード 2:7歳以下)	○	○	○	○	○	○	○
性別	GE	1または2	1バイト固定長 (1:男性 2:女性)	○	○	○	○	○	○	○
年齢	AG	XX	1~2バイト可変長 (単位才、右詰)	○	○	○	○	○	○	○
身長 (cm単位)	Hm	XXX.X	4~5バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位cm)	○	○	○	○	○	○	○
着衣量(風袋量)	Pt	XX.X	3~4バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位kg/lb)	○	○	○	○	○	○	○
体重 (kg単位)	Wk	XXX.X	3~5バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位kg/lb)	○	○	○	○	○	○	○
体脂肪率	FW	XX.X	3~4バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位%)	○	○	○	○	○	○	○
脂肪量	fW	XXX.X	3~5バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位kg/lb)	○	○	○	○	○	○	○
除脂肪量	MW	XXX.X	3~5バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位kg/lb)	○	○	○	○	○	○	○
筋肉量	mW	XXX.X	3~5バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位kg/lb)	○	○	○	○	○	○	○
筋肉率	mw	XX.X	3~4バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位%)	○	○	○	○	○	○	○
全身筋肉スコア	sW	1~16	1~2バイト可変長	○	○	○	○	○	○	○
推定骨量	bW	XXX.X	3~5バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位kg/lb)	○	○	○	○	○	○	○
体水分量	ww	XXX.X	3~5バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位kg/lb)	○	○	○	○	○	○	○
体水分率	ww	XX.X	4バイト固定長、小数点以下1桁まで (単位%)	○	○	○	○	○	○	○
BMI	MI	XXX.X	3~5バイト可変長、小数点以下1桁まで	○	○	○	○	○	○	○
標準体重	Sw	XXX.X	3~5バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位kg/lb)	○	○	○	○	○	○	○
肥満度	OV	XXX.X	3~5バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位%)	○	○	○	○	○	○	○
内臓脂肪レベル	IF	1~59	1~2バイト可変長	○	○	○	○	○	○	○
基礎代謝量kJ	rb	XXXXX	1~5バイト可変長 (単位kJ)	○	○	○	○	○	○	○
基礎代謝量kcal	rB	XXXXX	1~5バイト可変長 (単位kcal)	○	○	○	○	○	○	○
基礎代謝判定	rJ	1~16	1~2バイト可変長	○	○	○	○	○	○	○
ローレル指数	RO	XXX.X	4~5バイト可変長、小数点以下1桁まで	○	○	○	○	○	○	○
GS目標体脂肪率	gF	4~55	1~2バイト可変長	○	○	○	○	○	○	○
両手間 R(6.25kHz)	UA	XXXX.X	5~6バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位Ω)	○	○	○	○	○	○	○
X(6.25kHz)	VA	XXX.X	3~5バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位Ω)	○	○	○	○	○	○	○
R(50kHz)	RA	XXXX.X	5~6バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位Ω)	○	○	○	○	○	○	○
X(50kHz)	XA	XXX.X	3~5バイト可変長、小数点以下1桁まで (単位Ω)	○	○	○	○	○	○	○
接触状態	CC	“0000000000000000X”	18バイト固定長 (0:非接触 1:接触)	○	○	○	○	○	○	○
チェックサム	CS	XX	2バイト固定長	○	○	○	○	○	○	○

※体脂肪率エラー発生時は、先に記載した出力内容の代わりにエラーコード”E7”を出力する。

※体水分率エラー発生時は体水分量、体水分率は出力されない。

## 4. 出力データ例

下記に、ターミネータ（CR+LF）のついたデータが1電文として出力されます。

```
{0, 16, ~0, 1, ~1, 1, ~2, 1, MO, "DC-13C", ID, " ", DT, "2018/01/01/", TI, "15:51",  
Bt, 0, GE, 1, AG, 47, Hm, 178. 0, Pt, 0. 0, Wk, 50. 0, FW, 3. 0, fW, 1. 5, MW, 48. 5, mW, 46. 0, mw, 92. 0, sW, 5, bW, 2.  
5, wW, 36. 3, ww, 72. 6, MI, 15. 8, Sw, 69. 7, OV, -28. 3, IF, 2, rb, 5711, rB, 1365, rJ, 24, rA, 32, gF, 20, UA, 493  
. 8, VA, -9. 1, RA, 465. 7, XA, -37. 2, CC, "0000000000000000", CS, 70
```

※1～4項の制御データは拡張用である。現在は未使用のため、受け取り側は無視できる。

※チェックサムは先頭の' { 'からチェックサムのヘッダ" CS" の手前のコンマ' , 'までの文字コードを合計したもの。

## 5. 改訂履歴

Version 1.0	2018/08/07	初版
Version 1.1	2018/12/06	P3に注意事項追加、誤記修正